

# 熱川・天目山に10基!! 本当にこのままでいいのでしょうか… 巨大風車が建つ?

## 東伊豆の自然を破壊し騒音を撒き散らす『風力発電』

海と山に抱かれた静かな環境。緑の宇宙船地球号が東伊豆町民に与えてくれた豊かな自然とその恵み! そんな場所に突如『風力発電計画』が持ち上がった。計画は平成18年4月頃から始まったと言う。

紺碧の空と融合して行く海に向かい伊豆七島をながめ、振り返ればそこに天城連山の美しい山並みと"万次郎・万三郎"の雄姿、そんな大自然が与えてくれる山海の恵みが、町の人々を豊かに包み込み、訪れる人を優しく迎え癒してくれる、あくまでも透き通った自然環境があるまち東伊豆。

父祖伝来のこの土地に、都会に出た子供達が帰省したときにほっと出来るこの土地に、いつまでも残して置きたいこの土地に、いきなり風力発電機が天目地区に10基も立つという。東伊豆町全体では35基もの大規模建設。これは全く不可解な計画だ。たとえ国の自然エネルギー対策とはいえ、人口1万5千人足らずの町に既存の3基を合わせ38基もの風車が回りだす。なんと無謀なことを?



美しい天城に連なる天目山に100m級の  
巨大風車10基が建ち上がる?

## 町が言う「メリット」とは?

1. 永年の区と町の懸案だった町道の整備が進む
2. 固定資産税の収入が見込める
3. 風車の観光資源化
4. 工事による地元業者への経済効果

等を挙げているが、山が荒れれば海も荒れ、海産物への影響が心配だ。美味しい水や温泉の水脈は大丈夫か? 貴重な動植物への影響は無いのか? などのデメリットについては知らぬふり。

## 東伊豆町の将来ビジョン

……団塊世代対策（いわゆる2007年問題）は?

地方財政悪化の中で、多くの自治体は「都会から地方へ移り住む団塊世代をいかに取り込むか」の知恵を巡らしている。熱海も伊東も下田でも新規な開発費をかけなくて出来る工夫をしているのだ。わざわざ風車が団塊町を選択するともいうのだろうか。風車計画は将来ビジョンの重要な問題、団塊世代の誘致を自らの手で断ち切ってしまうことになる。これはたいへん手痛い失政と言うしかない。

## 風車建設にまつわる手続きの謎

1. 風車計画は土地問題から始まった。
  - \* 青木あすなる建設所有地への建設誘致。
  - \* 町道両側の土地を事業者買い取らせ、その見返りに風力発電誘致に町が協力。
2. 町有地の開発行為を区長、町長は区の総会、町議会に諮らないまま独断で同意書を業者に出した。
3. 事業者は環境調査と評価をエヌエス環境㈱に委託したが、予算が少ないので十分な調査報告・調査書が出来なかった。
4. 事業者はこの"同意書"や"評価書"で国の補助金申請を行ない、資源エネルギー庁は事業費の3割に当たる補助金（12億円）を18年10月末に認可した。

## 住民代表から『町長への提言』

町有地開発に「同意書」を出した奈良本区長。それをそのまま「地元住民総意の同意書」として悪用した風力発電業者。町道整備を優先し、ひたすら業者の後押しをする町長? 健康被害などを心配する近隣住民に説明することもなく、「犠牲になってください」の陳謝もないなんて、絶対に納得できるものではない。

町長さん! この辺で自らの過ちを認め、計画の見直しをしないと、町の将来に禍根を残すことになりませんか?

私たち別荘地自治会は、あくまで計画の見直しを関係機関に訴えていく覚悟であります。

(天目地区風力発電連絡協議会代表 川澄 透)

# 東伊豆町も変わりやにゃいけん!